

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-107607

(43) 公開日 平成11年(1999) 4月20日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

F I

E 0 5 C 19/08

E 0 5 C 19/08

E 0 5 B 65/08

E 0 5 B 65/08

X

審査請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平9-303267

(22) 出願日 平成9年(1997) 9月29日

(71) 出願人 597090723

根箭 正彦

大阪府大阪市西区北堀江 2 丁目 7 番 14 号

有限会社一般建築士事務所アルゴデザイン
内

(72) 発明者 根箭 正彦

大阪府大阪市西区北堀江 1 丁目 1 番 4 号

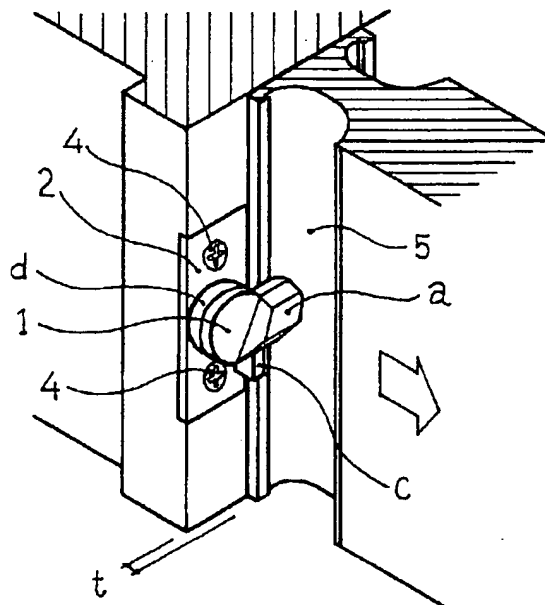
有限会社一般建築士事務所アルゴデザイン
内

(54) 【発明の名称】 側面付溝形引手用内掛錠

(57) 【要約】

【課題】 片引戸用内掛錠と両面引手の機能を兼ね備えたロック装置をより簡単な構造で提供。

【解決手段】 特願平 09-170885 号の一連の側面付溝形引手 5 を受座に用い、その構造は回転円状板 1 に固着するラッチ兼安定錘 a 等なる回転部と、基板 2 に必要外の回転止めとなるリブ c 等なる固定部で構成する。前記引手の溝部に係止してロック状態を保つラッチ兼安定錘 a を回転操作してロック開放する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 回転円状板(1)にラッチ兼安定錘

(a)と雌ネジ部(b)が一体となり固着していて、外れ止めである雄ネジ(3)を組立時に取り付けけた回転部と、建具縦枠に平頭ビス(4)で取り付けけるための皿加工したビス穴2箇所を設けた基板(2)に、ラッチ兼安定錘(a)の必要外の回転止めとなるリブ(c)と、雌ネジ部(b)の回転芯を決める持ち出し部(d)を一体にして固着させた固定部で構成し、特願平09-170885号の一連の側面付溝形引手(5)に引手が開閉する方向と直角にラッチ兼安定錘(a)が係止してロック状態とする側面付溝形引手用内掛錠。

【請求項2】 右勝手と左勝手、及びベース埋め込み形と特願平09-170885号の一連の側面付溝形引手(5)の係止部分厚(t)の寸法だけ持ち出し部(d)の基板(2)よりの出面寸法を小さくしたベース直付け形の4種類がある、請求項1記載の側面付溝形引手用内掛錠。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、建物内部に使用する片引戸用内掛錠に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来の片引戸用内掛錠においては、様々なタイプの錠錠がある。いずれも建具側に本体を、又建具縦枠に受座を取り付けるという形式のロック専用の装置であって、他の機能を兼ね備えるものはなかった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明は片引戸用内掛錠と両面引手の機能を兼ね備えたロック装置を、より簡単な機構と少ない部品で構成し、提供することを目的とするものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明におけるロック装置は、特願平09-170885号の一連の側面付溝形引手を受座に用い、本体は片引戸の召し合わせ側、建具縦枠の見込み部分に位置させる。その構造は引手が開閉する方向と直角に回転するラッチであって、引手に取り付けた前記引手の溝部分に係止してロック状態を保ち、それを回転操作してロック開放する装置とする。

【0005】

【発明の実施の形態】本発明は、片引戸召し合わせ側の建具縦枠の見込み部分を正面として取り付けけるロック装置本体と、特願平09-170885号の一連の側面付溝形引手を受座とするロック装置である。

【0006】ロック装置本体は右勝手と左勝手があり、引手が開閉動する方向と直角に回転し、手で操作するラッチ機能をもつ回転部分と、その回転軸を固定し、又建具縦枠にも固定させる取り付け部分をもつ基板部分とで

なっている。基板部分は建具縦枠にベースとなる基板を埋込む形と直付けする形がある。

【0007】

【実施例】右勝手にベース埋込み形の実施例について図面を参照して説明すると、ロック状態における図1と図2(A)、図3(A)及び図4(A)において回転円状板1にラッチ兼安定錘aと雌ネジ部bが一体となり固着していて、外れ止めである雄ネジ3を組み立て時に取り付けけた回転部と、建具縦枠に平頭ビス4で取り付けけるため皿加工したビス穴2箇所を設けた基板2に、ラッチ兼安定錘aの必要外の回転止めとなるリブcと雌ネジ部bの回転芯を決める持ち出し部dを、一体にして固着させた固定部で構成している。

【0008】図1と図2(A)、図3(A)では、特願平09-170885号の一連の側面付溝形引手5に、引手が開閉動する方向と直角に係止してロック状態を保っているラッチ兼安定錘aを左に270°手で回転操作させると、図2(B)、図3(B)のロック開放となる。

20 【0009】図示する右勝手仕様とは左右対称の左勝手仕様と、図4(B)に示す前記の引手5の係止部分厚tの寸法だけ持ち出し部dの基板2よりの出面寸法を小さくしたベース直付け形がある。

【0010】

【発明の効果】本発明は、以上説明したような形態で実施され、以下に記載されるような効果がある。

【0011】引き残し代をなくす目的を持つ、特願平09-170885号の一連の側面付溝形引手の機能を損なう事を最小限に押え、かつ簡単な機構と少ない部品で構成できる。

【0012】戸車調整による建具の上下動に関係なく機能し、ベース直付け形は特に取り付けが簡単である。

【図面の簡単な説明】

【図1】取り付け使用時のロック状態での斜視図である。

【図2】(A)はロック状態、(B)はロック開放時の正面図である。

【図3】(A)はロック状態、(B)はロック開放時の左側面図である。

40 【図4】(A)はベース埋込み形、(B)はベース直付け形のロック状態における縦断面図である。

【符合の説明】

1 回転円状板

2 基板

3 雄ネジ部

4 平頭ビス

5 一連の側面付溝形引手

a ラッチ兼安定錘

b 雌ネジ部

c リブ

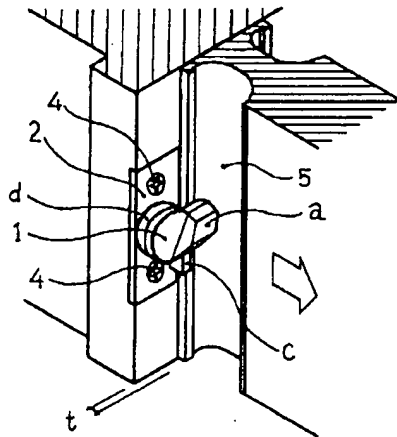
3

4

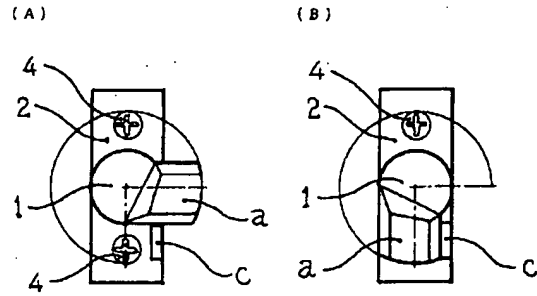
d 持ち出し部

t 一連の側面付溝形引手の係止部分厚

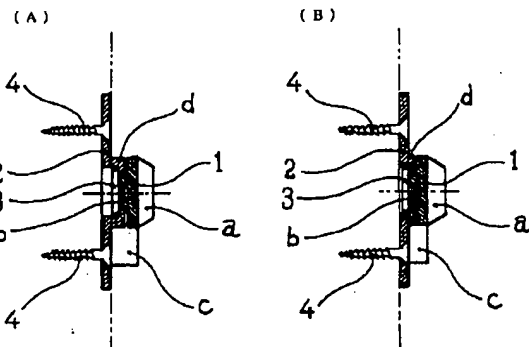
【図1】



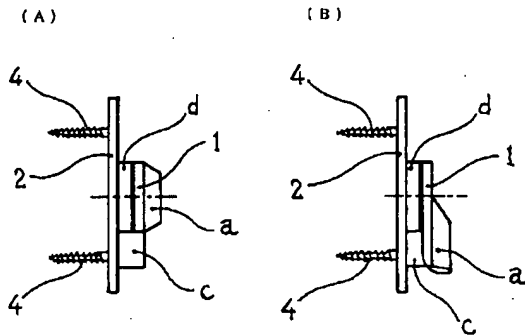
【図2】



【図4】



【図3】



CLIPPEDIMAGE= JP411107607A

PAT-NO: JP411107607A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 11107607 A

TITLE: INNER LOCK FOR GROOVE TYPE PULL HANDLE WITH SIDE SURFACE

PUBN-DATE: April 20, 1999

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

NEYA, MASAHIKO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

NEYA MASAHIKO

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP09303267

APPL-DATE: September 29, 1997

INT-CL_(IPC): E05C019/08; E05B065/08

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To simplify the construction of a lock device which includes the function of an inner lock for a single sliding door and that of a double pull handle.

SOLUTION: A series of groove type pull handles 5 each having a side surface of Patent Application No. 09-170885 are used as a receiving seat, and a rotation part comprising a latch and stabilizing weight (a) fixedly attached to a rotational circular plate 1 and a fixing part comprising a rib (c) which prevents unnecessary rotation of a base plate 2 are provided. The latch and stabilizing weight (a), which engages with a groove of the handle 5 to keep a lock state is rotated to release a locked condition.

COPYRIGHT: (C)1999,JPO